



日本政府観光局（JNTO）

<https://www.jnto.go.jp/jpn/>

業 種：政府機関

従業員数：215名（2020年4月現在）

所在地：〒160-0004

東京都新宿区四谷1-6-4

四谷クルーセ3・4階

事業内容：主要な市場に海外事務所等を設置し、外国人旅行者の誘致活動を行う政府機関。1964年に設置され、2003年に独立行政法人 国際観光振興機構になった。日本へのインバウンドツーリズムのプロモーションやマーケティングを展開しており、その一環として「日本の観光統計データ」サイトにおいて、日本の観光統計データを発信している。

日本の観光統計データを Tableau で可視化して発信

インバウンドに役立つデータ活用を積極的に支援

ユーザーによる
直感的な分析が容易に

メディアや地域からも
高い評価

導入前の課題

表形式やPDFでは要望への対応が困難

以前は表形式やPDF形式でサイトにアップロードしてデータを発信していたが、網羅性のあるデータを載せることができないなど、利用者の要望に対応することが難しかった。

解決策

観光統計データを Tableau でダッシュボード化

データをわかりやすくビジュアル化し、インタラクティブに操作できるサイトを目指し「日本の観光統計データ」サイトを構築。ここで Tableau Public のダッシュボードを活用している。

導入後の効果

直感的な操作でわかりやすい分析が可能

訪日外国人数の季節変動や訪問先の分布、国内での観光経路、さらには消費動向も、わかりやすく分析できるようになった。ダッシュボードを作成するときも、直感的な操作で多様なビジュアル表現が可能。

選定理由

グラフの表現力とカスタマイズ性

ユーザーが知りたい市場や地域を選択し、グラフをカスタマイズして表示できる点や、そのまま資料の中で使えるレベルのデザイン性を高く評価。

導入時期：2018年

導入製品：Tableau Public

主な利用環境：インバウンドの促進に役立つ各種統計データを、Tableau Public で可視化して発信

導入に要した期間：サイト構築も含めて約9か月



お客様プロフィール

お名前: 吉田 憲司 様
役 職: センター長
部 門 名: 企画総室デジタルマーケティングセンター
主な担当業務: JNTOのデジタルマーケティングを推進するデジタルマーケティングセンターを統括。

お名前: 小松原 早貴 様
役 職: アシスタント・マネージャー
部 門 名: 企画総室調査・マーケティング統括G
主な担当業務: JNTOの重点市場に関する調査や分析、毎月発表している訪日外客数の統計発表を担当。

お名前: 福井 千尋 様
役 職: シニア・アシスタント・マネージャー
部 門 名: 企画総室デジタルマーケティングセンター
主な担当業務: 「日本の観光統計データ」サイトにおいて、位置情報の公開などを主に担当。

お名前: 中村 大介 様
役 職: シニア・アシスタント・マネージャー (取材当時)
部 門 名: 企画総室デジタルマーケティングセンター
主な担当業務: デジタルマーケティングセンターにおいて、局内のデジタルマーケティングを推進。

導入の背景

表計算ソフトやPDFでは難しかったデータニーズへの対応

主要な市場に海外事務所等を設置し、外国人旅行者の誘致活動を行う政府機関である、日本政府観光局（JNTO）。1964年に産声をあげ、その後50年以上にわたって日本へのインバウンドツーリズム（外国人の訪日旅行）のプロモーションやマーケティングを推進しています。

「その一環としてJNTOが取り組んでいるのがデジタルマーケティングの強化であり、日本の観光統計データを通じた情報提供もその活動の一つとして位置付けることができます」と語るのは、JNTO 企画総室デジタルマーケティングセンターでセンター長を務める吉田 憲司 氏。その他にも様々なウェブサイトやSNSによる情報発信、スマホアプリを活用した訪日中の外国人旅行者への支援などを積極的に展開していると説明します。

しかし、以前は表形式やPDF形式でデータをウェブサイトアップロードしており、データニーズへの対応に限界を感じていたと言うのは、JNTO 企画総室調査・マーケティング統括Gでアシスタント・マネージャーを務める小松原 早貴 氏です。

「既存の表計算ソフトでは訪日外国人の全ての国を網羅したシートを作成することが難しいため、主要国を抜粋する形でアップロードしていました。しかし『載っていない国のデータが欲しい』『もっと細かいデータが見たい』という要望が、数多く寄せられていました」。

2016年度にはこの課題の解決に向けた検討に着手。新たに「日本の観光統計データ」サイトを立ち上げるための取り組みがスタートしました。

Q1. Tableau 導入後の変化は？

A1. サイトで自ら調べるユーザーが増大

「これまでも電話で「こんなデータがないか」といった問い合わせを数多く受けていましたが、このサイトを紹介すると感動されることが多くなっています。またメディアの皆さまからの問い合わせも多いのですが、最近ではメディアの皆さま自らこのサイトで調べていただけるようになっています」

Q2. Tableau でもっとしたいことは？

A2. インフォグラフィックの提供

「単純なグラフにとどまらず、インフォグラフィックも作成することで、インバウンドに役立つデータを直感的にわかりやすい形で提供していきたいと考えています」

「このサイトの立ち上げで目指したのは、誰でも使えるようにデータをビジュアル化した状態で掲載することと、そのデータをインタラクティブに操作できるようにすることです」と小松原氏。そのために活用されているのが、Tableau Publicなのです。

Tableau 導入・運用環境

多様な観光統計データを Tableau でダッシュボード化

「日本の観光統計データ」サイトが立ち上がったのは2018年3月。JNTOが算出している観光データに加え、観光庁や国連世界観光機関が発表する統計データも掲載しています。これらのデータを Tableau Public でダッシュボード化し、ビジュアル化されたデータを閲覧者が自由に操作しながら見られるようにしています。

2021年3月には、JNTOが運営する「Japan Official Travel App」で取得したユーザーの位置情報に基づくデータも、「日本の観光統計データ」サイトで公開。「訪日旅行の動態を調べる」というダッシュボードの中で、地図などを活用した可視化が行われています。

「これは2020年度に約半年かけて開発しました」と語るのは、JNTO 企画総室デジタルマーケティングセンターでシニア・アシスタント・マネージャーを務める福井 千尋 氏です。「Tableau には地図上にデータをマッピングする機能もあるため、市区町村別の滞在ヒートマップや1kmメッシュごとの滞在ヒートマップ、旅行ルートなどの可視化も容易です」。

「データの掲載にあたっては、シンプルかつ過不足のないビジュアライズを行うことに留意しました」と語るのは、JNTO 企画総室デジタルマーケティングセンターでシニア・アシスタント・

マネージャーを務める中村 大介 氏。Tableau には多様かつきめ細かい表現が可能なビジュアライズ機能が装備されているため、他のツールでは難しい表現も、比較的簡単に実現できると言います。

「私が特に気に入っているのはサンキーダイアグラムです。これを利用して、日本に来た外国人が国内のどこからどこへ移動しているのかを、市区町村別に可視化したダッシュボードも作成しています。市区町村をピンポイントで指定し、流入元と流出先を割合も含めて可視化できるので、地域で観光振興を担当されている方にとって、利便性の高いものになっていると思います」。

Tableau 選定の理由

グラフの表現力とカスタマイズ性を高く評価

「日本の観光統計データ」サイトの構築は入札案件だったため、複数の事業者からの提案を総合評価で判断した上で、選定が行われています。採用された提案の中に含まれていたのが Tableau Public でした。導入後、JNTO では Tableau の優位性について、以下のように評価しています。

「ユーザーが知りたい市場や地域を選択し、グラフをカスタマイズして表示できる点が優れています。またデザイン性も高いため、表示したグラフをそのまま資料の中で使うことも可能です」(小松原氏)。

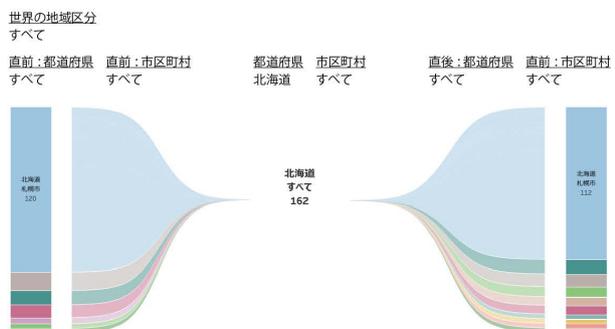
「位置情報との相性もよく、地図上へのデータマッピングも容易です。サイトユーザーにとっての使い勝手も良いと感じています」(中村氏)。

1km メッシュ別滞在ヒートマップ © 日本政府観光局 (JNTO)



- JNTO が提供する観光情報アプリ Japan Official Travel App より利用者の許諾を得て取得した位置情報データ(GPS)を個人が特定できないよう集計加工したデータであり、一定数以上のサンプルが取得できた情報のみを掲載している。
 - ◆ 利用者の国籍および訪日回数はアプリ内アンケートにより取得している。
 - ◆ 各メッシュごとに滞在した回数を集計している。同一旅行者が同じメッシュ内に留まり続けている限り滞在回数は1回となるが、他のメッシュに滞在後、再び同じメッシュに戻ってきて滞在した場合には別の滞在とみなす。
 - ◆ その他、言葉の定義や集計仕様については操作マニュアルを参照。
- 出典:日本政府観光局 (JNTO)

市区町村別流入出状況 © 日本政府観光局 (JNTO)



- ◆ JNTO が提供する観光情報アプリ Japan Official Travel App より利用者の許諾を得て取得した位置情報データ(GPS)を個人が特定できないよう集計加工したデータであり、一定数以上のサンプルが取得できた情報のみを掲載している。
 - ◆ 利用者の国籍および訪日回数はアプリ内アンケートにより取得している。
 - ◆ その他、言葉の定義や集計仕様については操作マニュアルを参照。
- 出典:日本政府観光局 (JNTO)

Tableau 導入効果
直感的な操作でわかりやすい分析が可能に

「Tableau で統計データをビジュアライズしたことで、訪日外国人の季節による変動や、訪問先の分布、国内での観光経路、さらには消費動向も、わかりやすく分析できるようになりました」と小松原氏。ダッシュボードを作成するときも、直感的な操作で多様なビジュアル表現ができると言います。

また、デフォルトで用意されている表現だけではなく、独自の表現を作り込みやすいことも、大きなメリットだと指摘するのは中村氏です。市区町村間の流入・流出を可視化したサンキーダイアグラムでは、このような特徴が活かされていると述べています。

さらに、わかりやすい情報発信を行うことで、メディアや地域からの評価も高まっています。

「サイト開設後すぐにウェブメディアに『すごいサイト』として取り上げられ、ビジュアライズが高く評価されました。また全国紙のウェブメディアにも、このサイトを使った分析方法の記事が掲載されています。地域の方々からも、位置情報がオー

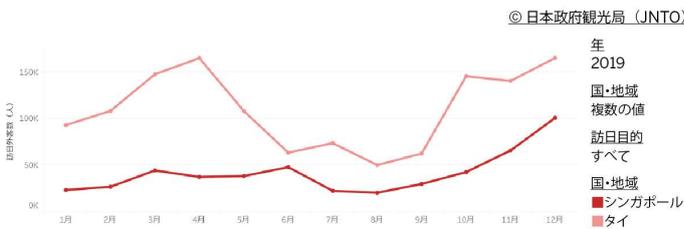
ブンデータとして公開されることで、議論が行いやすくなっていると言われています」(小松原氏)。

今後の展開について
データで困難に直面する人々を勇気づけたい

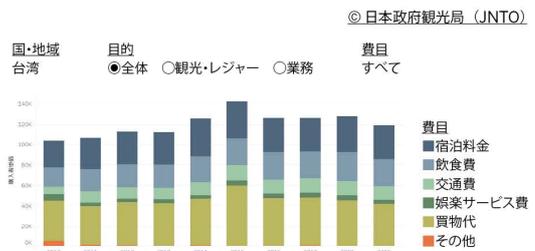
「我々が提供するサービスがどの程度役に立っているかの定量的な評価は難しいのですが、Tableau による可視化を行ったことで、観光統計データの活用はこれまで以上に拡大していると感じています」と吉田氏。「今回の取り組みを通じて一定の手応えを感じることができたので、引き続きこの活動を進めたい」。

今後はデータのグラフ化にとどまらず、インフォグラフィックスの作成にも積極的に取り組み、インバウンドに役立つデータをより直感的な形で提供していくことを考えています。これと並行してデータの活用事例も増やしていきたいと語ります。

「今はコロナ禍でインバウンドは大変な状況です。『今、何をすべきか?』と悩んでいる方が多いので、わかりやすい形でデータを出し続けることで、業界全体の下支えに少しでも貢献していきたい」(吉田氏)。

2019年 月別 国・地域ごとの訪日外客数の推移


- ◆訪日外客とは、国籍に基づき法務省集計による外国人正規入国者から、日本を主たる居住国とする永住者等の外国人を除き、これに外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者のことである。駐在員やその家族、留学生等の入国者・再入国者は訪日外客に含まれる。乗員上陸数は含んでいない。
 - ◆2007年以降の「観光客」の数値には「一時上陸客(通過客)」が含まれる。訪日ビザを取得せずに日本での短期滞在が認められている国からの「一時上陸客」は、従来「観光客」に含まれており、「一時上陸客」の人数を別途把握することは不可能であった。それに加え、韓国、台湾、香港等からの短期滞在者に対する訪日ビザの免除措置が取られたことにより、近年、「一時上陸客」の該当者が「観光客」に組み込まれるようになり、「一時上陸客」は激減した。「一時上陸客」の日本での滞在が短期間であるとは言え、事実上観光客と行動が同様である実態に鑑み、2007年以降は「一時上陸客」を「観光客」に加え、「観光客」の定義を変更することとした。
 - ◆1964年～2019年は確定値、2020年1月～2021年3月は暫定値である。
- 出典:日本政府観光局(JNTO)

費目別1人当たりの旅行消費額の推移(台湾・全体)


- ◆日本を出国する訪日外国人(1年以上の滞在者、日本での居住者、日本に入国しないトランジット客、乗員を除く)を対象に行った聞き取り調査である。
 - ◆それぞれの調査年で、国籍や訪日目的ごとの標本数が異なるため、比較においては注意が必要である。
 - ◆値はすべて確報値である。
- 出典:日本政府観光局(JNTO)

無料トライアル版をダウンロードして、ぜひ Tableau をお試しください。

<http://www.tableau.com/ja-jp/trial>

株式会社セールスフォース・ドットコム Tableau (Email: japan@tableau.com)